

安岐歌舞伎保存会 (中津川市)

中津川市阿木地区(旧阿木村)は、古くは安岐郷と呼ばれ江戸時代から地歌舞伎が盛んな地域でした。万延元年(一八六〇年)には村の中心部に芝居小屋「安岐座」が作られ、大正三年には「阿木公会堂」と名を変え、長年にわたり地歌舞伎などの催し物が盛大に行われていました。戦後も盛んに地歌舞伎公演が行われましたが、青年団などの活動が停滞すると、公演も下火となり、昭和五十七年には阿木公会堂も老朽化などを理由に取り壊されます。

その後、昭和六十年に阿木中学校体育館竣工記念として、久しぶりに地歌舞伎が上演されたのをきっかけに「安岐歌舞伎保存会」が結成されました。以後、子ども歌舞伎を中心に公演を行っていました。後継者不足もあり平成十一年の公演を最後に活動を休止しました。

令和三年三月の「勢揃い公演」を契機に、地域の地歌舞伎愛好家が集まり、活動を再開することになり、本公演で三回目の公演となります。今後地歌舞伎を通じて地域の活性化につなげてまいります。



恵那文楽保存会 (中津川市)

恵那山の麓にある中津川市「川上地区」に伝わる恵那文楽は、元禄年間(一六八八〜一七〇三)の初期に淡路のくづつ師(人形遣い)が川上地区の人々に伝授したのが起こりだと伝えられています。

時代の移り変わりとともに、恵那文楽を取り巻く環境も変わってきましたが、川上地区の人々により人形の頭と芸が大切に守られ、昭和三十三年には保存されている四十七首のうち二十三首が「岐阜県重要有形民俗文化財」に指定されました。

さらに、昭和五十六年には中津川市の「無形文化財」の指定を受け、平成元年には「岐阜県重要無形民俗文化財」の指定を受けました。また、大阪文楽劇場、東京国立劇場等への出演のほか、カナダのケローナ市やフランスのロワール県及びパリ市での海外公演も果たしました。

現在、毎週土曜日を稽古日として活動をしているほか、ジュニア文楽教室を平成二一年より立ち上げ、児童への指導をしています。練習の成果は、ふるさと芸能文化発表会・地元神社例大祭・地域行事イベント等で披露しています。

郷土に連綿と根付いた伝統芸能文化を、会員一同が後世に受け継ぐ使命を胸に活動をして参ります。



清流の国ぎふ

地芝居・伝統芸能
フェスティバル
千種祭

加子母歌舞伎保存会 (中津川市)

加子母の歌舞伎は、娯楽の少ない農山村の人々にとって、江戸の頃から唯一の楽しみでした。明治二十七年には芝居小屋「明治座」が村人によって創建され、公演が盛んに行われました。しかし、大正時代の興行法や戦争中の娯楽の厳しい取り締まりにより、明治座での歌舞伎公演はしばらく休演することとなりました。

その後、各地の農村舞台が再び脚光を浴び始めた昭和四十七年、明治座が岐阜県重要有形民俗文化財に指定されました。これを契機に、昭和四十八年には、加子母の歌舞伎を愛する地元有志が集まって、「加子母歌舞伎愛好会」として再興し、公演を再開することができました。昭和四十九年には、「加子母歌舞伎保存会」と改称し、以降、毎年十月に明治座で定期公演を開催しています。

この間、資金や担い手不足など幾度も存続の危機がありました。しかし、地域の方々に保存会の会員になっていただくなど、子どもから大人まで地域一丸となって乗り越えてきました。



地芝居スタンプラリーを開催中!
県内の各公演を巡って地芝居印(スタンプ)を集めて景品を貰おう!
《スタンプラリーの楽しみ方》
1. 公演会場で地芝居印帳(スタンプ台帳)を入手
2. 入手した台帳を持って公演を巡る
3. 公演会場でスタンプをもらう
4. スタンプがたまったら景品と交換

その1. スタンプ獲得で全員にその場でプレゼント!
3個で 白川茶ティーバッグ、花の種
5個で 五平餅、オリジナル手ぬぐい
その2. さらに豪華景品が抽選で当たる!
5個で 焼きそば、お菓子など...
8個で 刺身、お菓子など...
※写真は景品の一例です。

県内各地の公演情報はこちめ!
地芝居大園ぎふ WEBミュージアム
保存団体による公演情報やアーカイブなど、魅力あふれるコンテンツを発信中!

ぎふ清流文化プラザYouTubeチャンネル
地歌舞伎勢揃い公演など、これまでのぎふ清流座での地芝居公演を配信中!
公演当日はライブ配信をします。

地芝居とは

地芝居とは、地元の素人役者によって演じられる地域の根付いた、歌舞伎、文楽、能狂言、獅子芝居の総称です。現在、岐阜県では40を超える地芝居団体が活動しており、毎年各地で定期公演等を行っています。また、県内には歴史ある芝居小屋や舞台が数多く現存しており、築100年を超える芝居小屋でも、毎年公演が行われています。

「清流の国ぎふ」文化祭2024
清流の国ぎふ

地芝居・伝統芸能
フェスティバル
千種祭

2024年 11月23日(土祝)

- ◆ 会場 **ぎふ清流座** (ぎふ清流文化プラザ 長良川ホール)
- ◆ 開演 12時00分 開場 11時30分
- ◆ 上演外題・出演
- 12時00分 (25分) 五大明王鬼神蜘蛛 安岐歌舞伎保存会 (中津川市)
- 12時45分 (40分) 生家朝顔日記 宿屋より山姥の歌 恵那文楽保存会 (中津川市)
- 13時45分 (40分) 特別プログラム 群馬岐阜 愛媛 熊本の芝居小屋関係者が熱弁!
- 14時45分 (50分) 全国芝居小屋会 芝居小屋の魅力を探る
- 15時55分 (30分) 時今也枯槎旗揚 中納寺馬鹿の場
- 16時25分 (15分) 加子母歌舞伎保存会 (中津川市)
- 16時55分 (15分) 幕切りの儀
- 終演 16時40分 (予定) 演目等は変更となる場合があります。



恵那文楽保存会

イヤホン同時解説
演目の見どころやあらすじについて、分かりやすく解説します。
南山大学名誉教授 東海学園大学客員教授 安田 文吉氏
地芝居大園ぎふ応援大使 古典芸能解説者 葛西 聖司氏
歌舞伎ソリエ おくだ 健太郎氏

ライブ配信
公演の様様をぎふ清流文化プラザ YouTubeチャンネルで配信します。
ぎふ清流文化プラザ YouTubeチャンネル

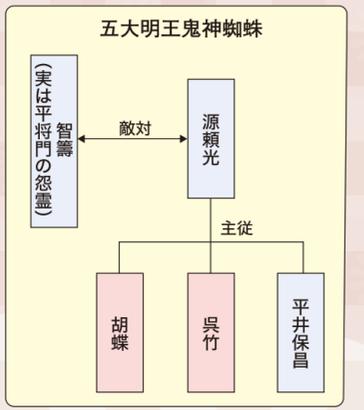
五大明王鬼神蜘蛛

密伝歌舞伎保存会(中津川市)

源頼光は四天王の一人平井保昌と侍女呉竹を従えて登場します。病で館に引きこもる頼光に、葉を届けに侍女の胡蝶がやってきます。胡蝶と呉竹の舞いに、しばしなぐさめられているところへ、比叡山の旅僧智壽(実は蜘蛛の精)が訪れます。智壽が病気の平癒の祈禱をすると、正体を見破られ燈火がはたと消え、だんまり模様となります。(暗闇の探り合う演出)

そしてその土蜘蛛こそ、頼光に亡ぼされた平将門の怨霊でありました。千筋の糸を投げかけ、立廻りとなり土蜘蛛の大見得にて幕となります。

◆配役	源頼光	秋山真一	後見	小倉恒平
	平井保昌	吉田進		鷹見靖子
	侍女呉竹	畑中寛子		
	胡蝶	西尾天音(中学三年生)		
	旅僧智壽	西尾昇		



生写朝顔日記 宿屋より山場の段

恵那文楽保存会(中津川市)

この作品は五段続きの時代物で、大内家のお家騒動に宮城阿曾次郎(駒沢次郎左衛門)と深雪(朝顔)の恋が絡む物語です。

これでもかどばかりに、すれ違いが続く二人。やつと二人が出会えたのは、宮城阿曾次郎が同役岩代多喜太と役目を果たして、江戸より帰国の途中、島田の宿で戎屋徳右衛門の宿に泊まった時でした。阿曾次郎は、部屋の前立、自作の唄が書いてあるのを見つけ、それがこの辺りの流浪している朝顔と云う盲目の女が唄っているものと聞き、宿屋の主人徳右衛門にその女を呼ぶように頼みます。駒沢はその女を見るより、はつと胸が迫ります。庭先に姿を見せたのは、自作の唄を扇子に記して与えた恋人のなれの果てでした。深雪は悲しい人と会えぬ悲しさに、目を泣きつぶし盲目の身となったのです。

しかし、意地の悪い岩代の前では、それを明かすことが出来ません。岩代は朝顔に唄えと強要します。朝顔は、恋人の前とは知らず用意された琴に向かい、想いをこめて唄います。岩代は、朝顔の美貌に見とれ身の上話を聞こうと言ひ出します。駒沢の心は痛みますが、朝顔は問われるままに身の上話を語るのです。やがて、駒沢は徳右衛門にお金と扇子と眼病の秘薬を彼女に渡してくれと頼んで、宿を立ちます。

朝顔は、渡された扇子に記された唄のわきに、駒沢次郎左衛門こと宮城阿曾次郎と書いてあると聞き、初めて悲しい阿曾次郎だったことを知り、止める徳右衛門を振り切つて後を追います。

やつと大井川までたどり着いた時は、阿曾次郎は既に川を渡つた後、しかも俄かの大雨で川止めとなっていました。朝顔は悲運に泣き崩れるのです。

◆配役	太夫	安藤那一
	三味線	杉田文
	口上・カギ	原康昭
	後見	原直尋
	人形遣い	大井文高(主遣い)
	徳右衛門	原信弘(左遣い)
		原光志(足遣い)
		大井久司(主遣い)
		佐藤照夫(左遣い)
		原哲子(足遣い)
		安藤聡志
		今井輝幸
		吉村米蔵
		佐藤あゆみ

生写朝顔日記 登場人物

宮城阿曾次郎 後に 駒沢次郎左衛門
大内家の武士、京都で儒学を学んでいるとき、宇治川の童狩で深雪に出会う。山口に居る伯父の駒沢了庵の養子となり、駒沢次郎左衛門と改名。
深雪 後に 朝顔
岸戸家の家老、秋月乃助の娘、宇治川の童狩で宮城阿曾次郎に出会う。
徳右衛門
島田宿の主人
岩代多喜太
駒沢と同じ家中

イヤホン同時解説 おくだ健太郎氏

名古屋出身。早稲田大学政経学部卒業後、大歌舞伎のイヤホンガイド解説者としてデビュー。その後二十五年あまり、歌舞伎座や御園座などで解説員を歴任。また、歌舞伎ソムリエの呼称で、執筆や講演、YouTubeの発信など、幅広く活躍している。



イヤホン同時解説 葛西聖司氏

東京都出身。古典芸能解説者。NHKアナウンサーとしてテレビ、ラジオで様々な番組を担当してきた。現在は、歌舞伎や能狂言など古典芸能の解説や講演、また日本伝統文化のセミナーを全国で開催している。教養として学んでおきたい歌舞伎、「教養として学んでおきたい能狂言」「僕らの歌舞伎」「文楽のツボ」ほか著書多数。令和四年四月より地芝居大園きふ応援大使に就任。



全国芝居小屋会議 芝居小屋の魅力を感じる

出演：『八千代座(熊本県山鹿市)』石橋和幸氏、『ながめ余興場(群馬県みどり市)』松島弘平氏、『内子座(愛媛県内子町)』徳田幸治氏、『相生座(岐阜県瑞浪市)』小栗幸江氏、『建築家 賀古唯義氏』進行：葛西聖司氏

時今也桔梗旗揚 本能寺馬盃の場 加多母歌舞伎保存会(中津川市)

小田上総介春永が、御台所阿波の局や家臣らと本能寺に着陣します。真柴筑前守久吉が献上した馬盃、馬を洗うために使う盃の形に似た花器・水盤に活けられた錦木に満足する春永ですが、傍らにある紫陽花と昼顔の花籠に不審を抱きます。この花籠は桔梗が活けたものでした。桔梗は春永に、兄武智十兵衛光秀の謹慎を解くよう許しを乞います。

家臣の取り成しもあり、光秀が召し出されます。春永は光秀に謹慎を解くとして、馬盃で酒を与えます。そして森蘭丸には光秀の領地を、長尾弥太郎年国には光秀が懇望していた名刀、日吉丸を与えます。

一方で、光秀には、掛け軸が入っているという箱を与えます。中には、女性の切髪が入っています。実はこの切髪、その昔、珍客をもてなすため、妻操が貧苦のために自らの髪を切つて売り払い、金策をしたものでした。このような過去を満座の中で侮辱した上で、さらなる謹慎を命じます。春永への恨みをにじませながら、光秀は本能寺を後にします。

愛宕山にある陣屋では、妻操と家臣安田作兵衛が本能寺へ出仕した武智十兵衛光秀の身を案じています。そこへ光秀が帰ってきました。光秀は作兵衛に何事かを命じ、この場を去らせます。そして、操に切髪を見せ、本能寺で恥辱を受けたことを告げ、夫婦ともども涙に暮れます。

そこへ小田上総介春永の命を受けた上使、浅山太三重光と、長尾弥太郎年国がやってきます。春永の上意を伝えようとしたところ、突如風が吹き、部屋の前が消えました。

光秀は死装束に着替え、上意が領地の召し上げに係るものと察した故と、自刃の意思を両者に伝えます。年国が春永に与えられた名刀、日吉丸を手にし、辞世の句を読みます。

「時は今天が下知る 臍月かな」

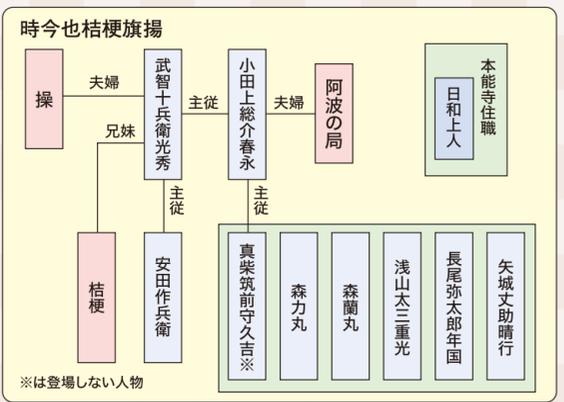
自刃すると見せかけたその瞬間、両者を討ちます。そこへ、作兵衛が急ぎ戻り、味方の軍勢が本能寺を包囲したことを告げ、幕となります。

時今也桔梗旗揚 愛宕山よ使討の場 加多母歌舞伎保存会(中津川市)

時今也桔梗旗揚 愛宕山よ使討の場 加多母歌舞伎保存会(中津川市)

◆配役	武智十兵衛光秀	秦雅文
	光秀妻 操	今井梓沙
	光秀妹 桔梗	安富加奈美
	安田作兵衛	小南元氣
	浅山太三重光	安江恒明
	長尾弥太郎年国	桂川真嗣
	矢城丈助晴行	熊崎和彦
	腰元	原田佳苗
		森本紗栄

後見	岡崎隆彦
	田中浩子
	中川恵理



協力	師匠	松本 団女
	太夫	竹本 美芳
	三味線	豊澤 順八
	下座	松本 奈津美
	顔師	松本 知也
		松本 宙士
	床山	松本 茂み
	着付	松本 真由美
		三浦 恵美
		原田 ユカ
	衣裳	内木 里奈
		松本 衣裳

※は登場しない人物